



鳥取大学附属図書館報

巻頭言：図書館と私

私の選んだこの一冊

「利己的な遺伝子」リチャード・ドーキンス著

「F1 地上の夢」海老沢泰久著

特集 大学図書館の学生協働

学生協働について

大学図書館学生協働交流シンポジウム（山口大学）参加報告

鳥取大学附属図書館における学生協働

トピックス

附属図書館利用状況（最近5カ年）

中島 健二 1

児玉基一朗 2

井上 仁 3

森 規昭 4

大井津明子 6

中谷 昇 6

前田 明德

8

11



鳥取大学附属図書館報 “Library” No.124

<http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

(2014年10月)

図書館と私

中島 健二

本年4月に附属図書館医学部分館（医学図書館）長を拝命し、医学図書館を訪れました。その後も時々訪れるようにしていますが、いつも学生たちが利用してくれている姿が見られます。図書館の役割の一つに情報交換や交流の場としての空間を提供することがありますが、学生たちが情報の交換や収集を行う場として図書館を活用しているのが良く理解できます。自分も学生時代には試験前になると図書館にやって来て勉強したり、情報を集めたりしました。また、収集されている書籍を利用してレポートを書いたりしていたことを思い出します。

大学を卒業すると、論文を書かないといけなくなり、図書館へ行っては関連する文献を捜しました。Index Medicus や医学中央雑誌で文献を検索したのですが、この文献を検索するのはかなり大変な作業でした。キーワードを決め、厚い Index Medicus を広げ該当項目のページを開いて論文を捜します。論文題名しか掲載されていませんでしたので、内容は題名から類推しかなく、なかなか思うような文献が探せませんでした。該当しそうな文献を見つけるとメモ書きをしてその雑誌を捜してコピーしました。ここの図書館にない論文であれば、他大学図書館などに依頼してコピーを取り寄せる“相互貸借”を利用することになります。入手は可能ですが、コピーが郵送されてきて入手できるまでにはかなりの日数を要しました。また、折角入手しても、論文を読んでみると期待していたものとは内容が若干異なっていたりしてがっかりすることもありました。海外に留学していた時にも図書館はしばしば利用しました。広々とした

スペースと膨大な所蔵雑誌に圧倒され、その充実ぶりをうらやましく感じました。

図書館所蔵の書籍を利用する

ことも最近はなく、必要な書籍は購入していますが、学会に参加した際に学会場に設置されている書籍販売コーナーで直接書籍をチェックして購入したり、その書籍をメモして米子に帰ってから注文して購入したりしています。和書も洋書も、直接手にとって見て選ぶので好都合です。

文献検索や文献入手が容易になり、便利になってきています。文献検索はインターネットで PubMed を利用して文献を検索します。この PubMed も医学図書館ホームページから入ることができます。抄録が読めますので、必要な論文かどうかの大凡の目途を付けることができ、大変助かります。検索した文献を入手するのもインターネットで行います。自室のコンピューターでしますので、図書館に行く必要はありません。研究室、あるいは、自宅でも情報収集が可能です。このため、図書館を利用しているとの認識が希薄になっているようにも思います。実際には、図書館により購入されている電子ジャーナルを利用していますが、そのことをあまり認識することなく使用しているようにも感じます。研究の発展のためにも電子ジャーナルの充実は重要です。現在所属している学会が発行している学会誌についてみましても、冊子体と電子ジ



ジャーナルの両者を発行していた学会が電子ジャーナルのみを発行することにしたり、これまで冊子体のみを発行していた学会が電子ジャーナルへの移行を進めているなど、今後、ますます電子ジャーナルが重要になってくるものと思われます。

一方、海外から購入している国際雑誌の電子ジャーナル経費が高騰しています。昨今の円安もあって購入価格の上昇が大きく、この電子ジャーナル購入経費の問題が極めて大きな課題になっています。やむなく、いくつかの電子ジャーナルの購入を中止せざるを得なくなったりしていますが、ジャーナルの購読中止は研究機関にとって極めて大きな痛手であり、直ちに利用者の皆さんに直接影響が及

ぶこととなります。他の経費を削減しようにも、どれも必要な経費であり、それもなかなか難題です。図書館の役割で最も重要なのは、利用者の皆さんに必要な情報・資料の収集を支援し、その提供により学習や研究の支援をしていくことです。医学図書館長を拝命して半年になりますが、その間この電子ジャーナル経費の問題が大きな課題である現実を改めて考えさせられているところです。この問題は、利用者である皆さんにも考えて頂きたい課題であり、図書館が抱えるこのような課題について皆さんのご理解をお願いしたいと考える次第です。

(なかしま けんじ : 医学図書館長)

私の選んだこの一冊

リチャード・ドーキンス「利己的な遺伝子」(紀伊国屋書店)

児玉 基一郎

本書は、科学啓蒙書としては著名なものの一つであり、読んでいなくてもそのタイトル (The Selfish Gene) に聞き覚えのある人も多いかと思う。40年近く前に出版された古典とも言えるが、現代でも全く色褪せておらず、科学解説書としては希有な存在である。2006年には、初刷30周年を記念して増補新装版が出版された。進化生物学から人間の存在理由まで論じた内容は非常に大きなインパクトがあり、発刊当時から現在に至るまで、様々な論争の題材にもなっている。そのため、本書に対しては、誤解、批判、さらにはかなりの外的なレビューも多いので注意が必要である。

絶賛されることの多い本書ではあるが、正直言って読みこなすのは容易ではないかもしれない。初めて本書に出会ったのは学生時代だったが(当時、日本語タイトルは「生物＝

生存機械論)、よく分からないなあ、という印象のみが残っている。最後まで読み通せなかったかもしれない。その後、生物関連の分野を専攻し農学部の教員となり、さらに生物を扱う仕事を本格的に行い始めてしばらくしてから、本書を再読したときの衝撃は、今でも鮮明に記憶している。ダーウィンの思想的後継者の代表と称されている著者の、進化論をベースとした議論は極めて明瞭であり、世界に関する疑問の全てが霧散した気になった。人はどこから来てどこに行くのか、といったような。同時に、非科学的な思想・存在に対する攻撃も激烈で、感動を覚えるほどだった。「科学の終焉(おわり)」の中で、ジョン・ホーガンは、ドーキンスに会ったときの印象を以下のように記述している。“ (中略) 彼の言辞の前には、それとはなしに前口上がついて

いるような気さえした。「どんな馬鹿にも分かることとは思いが・・・」と。」「悪魔に仕える牧師」や「神は妄想である」など、より最近の著作においては、宗教など科学に反する営みに対する著者の記述はさらに辛辣である。

一言でいうと、本書はとにかく面白いのである。いささか恥ずかしい表現であるが“知的興奮”という言葉が相応しい。読んでいて、ワンセンテンス毎にワクワクする。超（ウルトラ）還元主義者と評される著者であるから、内容は刃物のように鋭く曖昧さのかけらもないのであるが、表現はレトリック、ウイットに満ち溢れていて、最高の科学解説書と最善の文学を同時に読んでいるような感覚である。グレッグ・イーガンやダン・シモンズを読んでいるときのような“センス・オブ・ワンダー”感もある。著者自身は序文で、“この本はサイエンス・フィクションのように読んでもらいたい。イマジネーションに訴えるように

書かれているからである。けれどこの本はサイエンス・フィクションではない。それは科学である。”と記述している。

今読み返してみたが、全編、極めて明晰な論理構成と華麗なレトリックのオンパレードで、それらをここに字数の許す限り引用し続けたいくらいである。その方が、僕の紹介などより遙かにいいかもしれない。一段落毎に、バックにある巨大な知性を垣間見ることができる。

生物学、生命に関する優れた科学解説書、エッセイは数多い。例えば、長谷川真理子や福岡伸一の著作をまず読んで、自然科学、特に生命、進化などに興味を覚えたら（もちろん、社会科学にも）、次にはぜひ本書を手にとってもらいたい。いつかは。

（こだま もといちろう：大学院連合農学研究科教授 附属図書館委員）

私の選んだこの一冊

海老沢泰久「F1 地上の夢」（朝日新聞社）

井上 仁

学生の皆さんは F1 と聞いてもピンとこない方もいるかもしれませんが、最近日本ではほとんど話題にならなくなっていますが、F1 とは Formula1 という世界最高峰のモータースポーツです。ヨーロッパでは依然として人気が高く、レースの様子は TV で生中継されるほどです。日本では 1980 年代から 1990 年代初頭にかけて空前の F1 ブームが巻き起こり、TV のゴールデンタイムでも放送され、その時の視聴率が 20% を超え

たこともあったほどです。その理由は、日本人ドライバー中島悟が日本人として初めて F1 へのフル参戦を果たしたということもさることながら、何よりも私達の心を湧き立たせた理由は、HONDA エンジンの驚異的な戦闘力でした。HONDA エンジンを搭載したマクラーレンは 1988 年に 16 戦中 15 勝するなど、圧倒的な強さを見せました。

この本は HONDA の F1 をめぐる技術者達の物語です。1962 年、本田宗一郎は F1

への参戦を表明します。今から 50 年以上も前のことです。しかし当時の HONDA はオートバイでは名の知れた会社ではありましたが、まだ四輪車の生産は手掛けていませんでした。当初共同開発を約束していたイギリスのメーカーから突然の契約解除を通告された HONDA の技術者達は、F1 どころか車のエンジンそのものの知識が全くない状態から未知への挑戦が始まります。空冷エンジンにこだわる本田宗一郎と、水冷エンジンの優位性を訴える技術者との確執や、現場で指揮を執るリーダーの苦悩を織り交ぜながら、困難に立ち向かい問題の一つひとつを解決していく技術者達の姿を描

いています。

私は電気工学科の出身ですので専門分野は異なりますが、同じ技術者として一種の憧れを持って読んだことを思い出しました。内容は F1 エンジンと F1 カーの開発についてですが、F1 レースの舞台裏の興味深い話もあり、機械の専門家でなくても面白く読める内容です。皆さんのチャレンジスピリッツを鼓舞する本として紹介させていただきました。

(いのうえ まさし：総合メディア基盤センター教授 附属図書館委員)

特集 大学図書館の学生協働

学生協働について

森 規昭

大学図書館において、学生協働が広く取り組まれています。学生協働は、図書館の業務の一部を学生が担うことで、図書館に利用者視点を取り入れ、図書館の活性化を図る活動とすることができます。しかし、明確な定義が定まっているわけではないため、様々な活動が行われています。

図書館で学生協働が広く行われるようになった背景は、大きく二つ挙げられます。一つは、中央教育審議会答申など⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾に見られるように図書館が学生の主体的学修の場と位置づけられ、その人的支援として専門分野を学ぶ学生が求められるようになったこと、もう一つは、人手不足で雇用していた学生アルバイトをキャリア形成教育支援という観点から捉え直すようになったことによります。

具体的に学生協働は、「学習支援」「図書館

業務」「学生選書」「学生サークル・その他」と分類することができます⁽⁴⁾⁽⁵⁾。このうち、主な活動である学習支援と図書館業務について、見ていきます。

学習支援としては、学習相談・レポート作成支援などが行われています。大学院生が学部生の相談を受けるという形態(ピアサポート)をとっており、研究職、教育職を目指す学生にとって、貴重な体験となっています。また、図書館内にライティングセンターなどの別組織を設けてレポート作成支援を行っている大学では、教員が参加している場合があります。ピアサポートということで、学生が興味のある分野(就活、卒論、iPS細胞などの時事的話題など)に関するミニ講演会を開催している例も見られます。大阪大学⁽⁶⁾⁽⁷⁾、九州大学⁽⁸⁾などの取り組みが有名です。

図書館業務としては、カウンター業務（窓口業務）、ICT 機器サポート、図書館広報などが行われています。これらの業務は、学生アルバイトと重なるところが多いが、学生協働では学生の主体性を尊重した活動のため、経験を重ねた学生から新たな企画が提案され、新しい図書館サービスが開始されることもあります。また、学生協働に参加した学生の中には、卒業後、大学図書館職員として働いているものもあり、キャリア形成教育支援という点においても一定の成果を上げていると言えます⁽⁹⁾。お茶の水女子大学⁽¹⁰⁾、山口大学⁽¹¹⁾などの取り組みが有名です。

学生協働の実践事例は、「学生協働マップ」⁽⁵⁾や「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」⁽¹²⁾などに取り上げられています。また、本報の「大学図書館学生協働交流シンポジウム（山口大学）参加報告」では先進的な取り組みを取り上げている学生協働交流シンポジウムについて、「鳥取大学附属図書館における学生協働」では本稿では取り上げなかった学生選書に関する活動を報告しています。

（参考文献）

- （1）科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会「大学図書館の整備について（審議のまとめ）－変革する大学にあって求められる大学図書館像－（平成 22 年 12 月）」
- （2）中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）（平成 24 年 8 月 28 日）」
- （3）科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について（審議まとめ）（平成 25 年 8 月 21 日）」
- （4）八木澤ちひろ「大学図書館における学

生協働について－学生協働マップの事例から－」カレントアウェアネス No.316 (2013.6) , PP10-14

（5）学生協働マップ(2014 年 9 月 30 日確認)

<https://dl.dropboxusercontent.com/u/15665405/map/index.html>

（6）末田真樹子、堀 一茂、久保山健、坂尻彰宏「職員・教員・TA 協働による学習支援の取組」大阪大学高等教育研究 2 (2013), PP55-60

（7）大阪大学附属図書館「図書館 TA によるサポート」(2014 年 9 月 30 日確認)

<http://www.library.osaka-u.ac.jp/ta.php>

（8）九州大学附属図書館「図書館学習サポーター／Cute.Supporters」(2014 年 9 月 30 日確認)

<http://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/content.php?pid=336241&sid=2750513>

（9）森實彩乃「図書館で働きたい人へ」情報の科学と技術 64 巻 6 号 (2014), PP223-229

（10）廣田未来「お茶の水女子大学附属図書館の学生支援：ラーニング・コモンズと LISA プログラム」情報の科学と技術 61 巻 12 号 (2011), PP489-494

（11）日高友江、岡田 隆「学生協働（Library Assistant）によって変わる図書館サービス：山口大学図書館の実践」大学図書館研究 LXXXVII(2009.12) , PP9-14

（12）文部科学省研究振興局情報課「大学図書館における先進的な取り組みの実践例」

（もり のりあき 図書館情報課長）



特集 大学図書館の学生協働

大学図書館学生協働交流シンポジウム（山口大学）参加報告

大井津 明子

2014年8月21・22日、山口大学で大学図書館学生協働交流シンポジウムが開催されました。学生協働とは、大学で学生が職員とともに企画・運営に関わる活動のことをいい、主に図書館で行われています。鳥取大学では現在選書・ビブリオバトルなどに関わってもらっていますが、更に活動を発展させるための参考にしたいと思い参加させていただきました。

はじめに平尾元彦先生による基調講演「キャリアから考える学生協働」がありました。学生協働とは、キャリア（生涯にわたる生きる力・はたらく力）を学び育む場であるという話が印象に残りました。

ポスターセッションは学生によるポスター発表で、ポスターは①私たちの考える図書館づくり②活動を通して得られたこと③各大学の学生協働の特色の3つのテーマにそって作成されていました。九州大学で院生が学部生に対し、得意分野や自分の学んでいる専門知識を生かした学習サポートを行っているという話題、鳥根大学で職員が設定した基準を満たした学生がメインカウンター業務を担当する制度が発足し、図書の貸出・返

却にとどまらずレファレンスサービスも積極的に対応できるようになったという話題に興味を持ちました。

2日目のワールドカフェは「学生協働は利用者の役にたってるのか？」というテーマで学生と職員と一緒に小グループで話し合い、意見をまとめました。私の参加したグループは「利用者と言っても学生・教職員・学外者と様々であり、どの人を対象にした活動であるかによって利用者の満足度は変わってくる。ある人にとって役立つ活動でも、他の人にとって役立つとは限らない。しかし活動する以上、誰かの役には立っているはずだ」と話が進みました。

このシンポジウム全体を通して、学生の前向きな気持ちを感じることができました。やりっぱなしでなく、どうしたらより良い活動になるか考えておられる印象を受けました。

ここで学んだ活動事例を生かしつつ、より「鳥取大学らしい活動」ができるよう、これから学生と一緒に考えていきたいと思えます。

（おおいづ あきこ：図書館情報課司書）

特集 大学図書館の学生協働

鳥取大学附属図書館における学生協働

中谷 昇
前田明徳

【中央図書館】

中央図書館では、2012年度より、「学生選書ワーキンググループ（以下WG）」という学生協働事業を行っています。WGでは、「学生の視点から附属図書館をより良いものに

する」というコンセプトのもとで、主に附属図書館蔵書の選書を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

参加している学生は、年度ごとに改選を行

っており、現在は第3期にあたります。これまでは、先生方から推薦を受けた学生が参加していましたが、今年度は初めて学内へ広く公募し、11名（地域学部5名、工学部2名、農学部4名）の学生が参集しました。



募集ポスター

WGでは、月2回程度、附属図書館にて活動しており、主に選書やイベントの企画・打ち合わせなどが中心となっています。今年度は、主なイベントとして、これまでに定期選書、ブックハンティング、ビブリオバトル（書評合戦:人にも読んでもらいたい本を紹介する発表会）をそれぞれ1回ずつ実施しました。以下では、この中でも特に定期選書に焦点を当てて紹介します。

定期選書は、WG内の選書担当者が、一定の期間（1か月程度）内に予算の範囲内で自由に選書する、というものです。選書の結果はWG内で共有し、WGの学生同士で、選んだ本が附属図書館の蔵書としてふさわしいかどうかを協議します。そして、協議結果を反映させた選書リストを、WGの購入希望図書として職員に提出します。

昨年度までは、学生が選書したものをほぼ

そのまま附属図書館の蔵書として購入していましたが、今年度からは、学生同士での協議という形で、選書結果の振り返りの時間を設けています。協議では、選書担当から、なぜその本を選んだかという主張と、他のメンバーから、その主張に対する意見などを活発なやりとりが行われています。

まだ1回しか実施できておらず、試行的な面もありますが、学生同士で「附属図書館にふさわしい本とはどういうものか」「そもそも大学図書館はどういう場所なのか」といった根源的な問いについても話し合う姿が見られ、学生自ら自身の学ぶ環境について考えることができる、非常に有意義な時間になっていると感じています。

今年度の定期選書では、これまでに23冊の本を選び、図書館の蔵書として受け入れました。今後も第2回、第3回と実施していきたいと、学生からも希望の声が多く聞かれています。今後の活動でも、学生の視点を附属図書館に活かすだけでなく、それを通じて学生自身の、大学という環境に対する意識の向上にも役立てていきたいと考えています。

(なかたに のぼる : 図書館情報課司書)



選書会の様子

【医学図書館】

医学図書館では選書に協力願う学生を募集し、学生のための本を選ぶ「学生さんの選書会」という学生協働事業を毎年春と秋の2

回開催しています。

この選書会は直接書店へ赴き、学生自身の手で図書館に置く本を選ぶという大変有意義なものです。

今年度第1回目は8月4日に「本の学校 今井ブックセンター」にて学生に話題の本から専門書まで選書してもらいました。

参加された学生からは「あまり勉強以外の本を読まなかったので、久々に読みたい本を選びました」「文のみでは覚えにくい心療系の内容が大変覚えやすいから選びました」等、様々な本を選書してもらいました。

今回選書いただきました本は医学図書館の入口横のブラウジングコーナーの本棚に配架しています。来館の際はぜひご利用ください。

また、時間の都合等で参加できなかった学生に関わってもらうように医学図書館内にリクエスト BOX を配置しています。「学

習・研究に必要な本」、「サークル活動等で利用したい本」などぜひ投稿ください。学習、授業や学生生活に関連することや「この分野について調べたいけど本が少ない」といった具体的な書名でなくても受付をしています。

医学図書館は学生とよりよい図書館を作っていきます。どうぞ皆様のご利用お待ちしております。

(まえたあきのり : 図書館情報課司書)



説明を聞く学生たち (本の学校)

トピックス

「レポートの書き方」講習会の開催

7月8日、11日、17日に「レポートの書き方講習会」を実施しました。講習会では、レポートの正しい書き方から資料のまとめ方まで、レポート作成のヒントを詳しく解説しました。受講者は合計61名が参加し「資料がとてもわかりやすかった」「レポートの構成についてと参考文献の説明がよかった」などの感想が寄せられ、盛況のうちに終えることができました。



講習会の様子(7月8日)

鳥取県図書館大会ビブリオバトルの開催 (倉吉未来中心)

7月28日に倉吉未来中心を会場に第20回鳥取県図書館大会が開催され、記念講演やワークショップなどに公共図書館、大学図書館、学校図書館の司書約300人が参加しました。午後開催されたワークショップの一つとして鳥取県大学図書館等協議会による、「好きな本を紹介します ビブリオバトル」を本学が中心となり実施しました。

今回のビブリオバトルでは、6名のバトルによる熱気あふれるバトルが展開されました。



チャンプに選ばれた青山君（工学部）

バトル終了後、参加者 73 名により投票が行われ、チャンプ本として、筒井康隆著「文学部唯野教授」と伊坂幸太郎著「オー！ファーザー」が選ばれました。最後に「ビブリオバトルは人と本との出会いを演出し、読書を広げていく機会としてよい企画であり、鳥取県内でも多く開催されることを期待したい。」との講評がなされました。

平成 26 年度鳥取大学地域貢献事業を開催

平成 26 年度鳥取大学地域貢献事業として、今年度は医療健康情報と図書館をテーマに 2 回開催しました。

9 月 27 日に『看護・医療健康情報と図書館の利用』と題して、看護師や医療健康情報を扱う図書館員を主な対象とし、総合メディア基盤センターで開催しました。愛知医科大学医学情報センターの市川美智子氏を講師にお迎えし、看護研究等に必要な医療情報について、Web 上のデータベースを使った検索の方法を「“職場に戻ってからも実践できる”看護と周辺領域の文献検索」と題して講義および演習を行いました。また、鳥取県立図書館と鳥取大学附属図書館の医療情報提供についての報告を行いました。参加者からのアンケートでは「明日からすぐ使える有用な情報」「また、このような機会を作ってほしい」などの感想が寄せられました。実践的な内容となり、好評のうちに終わることができました。

10 月 11 日には『医療・健康情報と図書館の利用』と題して、地域の方を対象に健康情報講演会を倉吉交流プラザで開催しました。本学医学部の浦上教授を講師に「認知症を理解しよう」



浦上教授の講演

と題して、認知症についてわかりやすく解説され、認知症予防の大切さを講演して頂きました。参加者からのアンケートでも「今、一番関心のある認知症について、わかりやすい講演でした。」「認知症になって『安心して暮らせるまち』ではなく『予防出来るまちづくり』を目指して取り組みを行っていく視点の大切さを教わりました」などの感想が寄せられ、有意義な講演会となりました。

「初心者のための Excel<2010>講習会」を開催【医学図書館】

平成26年 8 月 23 日、24 日に医学図書館と総合メディア基盤センターサブセンター主催の「Excel 講習会 一簡単な家計簿作りに挑戦」を開催しました。

この講習会は、総合メディア基盤センターの本村真一准教授を講師に迎え、鳥取大学公開講座として、並びに米子市立図書館、境港市民図書館、南部町立図書館との共催事業で行いました。

今回の講習会も、先生の説明は、「セル」についての説明、列や行の挿入・削除など、初歩的な基本操作から始まりましたが、2日目の講習が終わるころには、受講者の方々は作表等の操作にも慣れ、簡単な集計表を作ることが出来ました。アンケートにも「家計簿を作成してみようと思いました。小さな一歩を踏み出せた講習会でした」「教わるというのは有難いし、解りやすいことだと思いました」などの感想が多数寄せられました。参加された皆様は、2日間にわたる長い講習の間、本当に一生懸命取り組んでおられ、講師以下スタッフ一同も、多くのことを学ぶ機会となりました。



Excel 講習会の様子

ビブリオバトル in 鳥取大学の開催

今年も5月2日と10月11日に「ビブリオバトル in 鳥取大学」を附属図書館1階ホールで開催しました。

5月のビブリオバトル大会は40名の観戦者のもと、5名の学生による熱戦が繰り広げられました。チャンプ本としてマントユイ・バークルー著「毒入りチョコレート事件」が選ばれました。

10月のビブリオバトル大会は、山陰地区大会、京都大会（全国大会）出場につながる予選会



風紋祭期間中のビブリオバトル大会

で、米子地区の医学部2名を含めた8名の学生によりバトルが展開されました。風紋祭期間中でもあり地域住民の方も多数観戦され、参加者は47名となりました。チャンプ本には農学部3年吉富修吾君が紹介した森見登美彦著「恋文の技術」が選ばれました。吉富君は10月24日の山陰決戦へ出場しましたが、惜しくも全国大会への切符を逃しました。

Twitter の試行運用

附属図書館では、7月2日から Twitter による情報発信を開始しました。Twitter では、図書館が開催する講習会やイベントなどの紹介、長期貸し出しの開始や臨時休館など図書館サービスのお知らせなどを発信していく予定です。鳥取大学附属図書館 Twitter のホームページは、以下のとおりです。

アドレス：

https://twitter.com/TottoriU_Lib



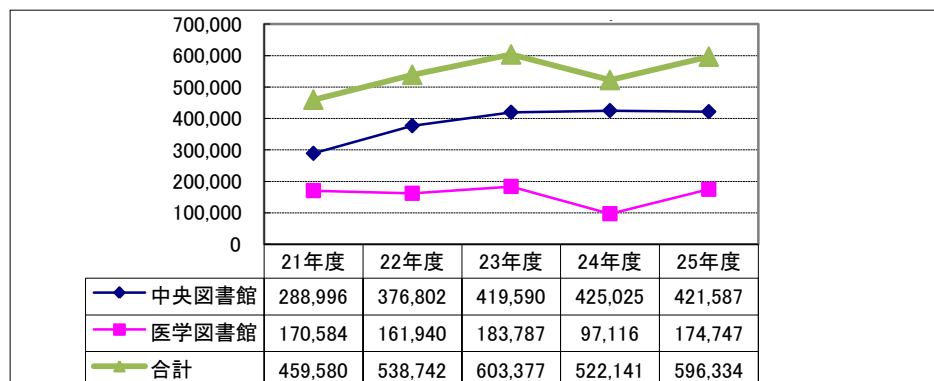
附属図書館利用状況(最近5カ年)

年度別開館日

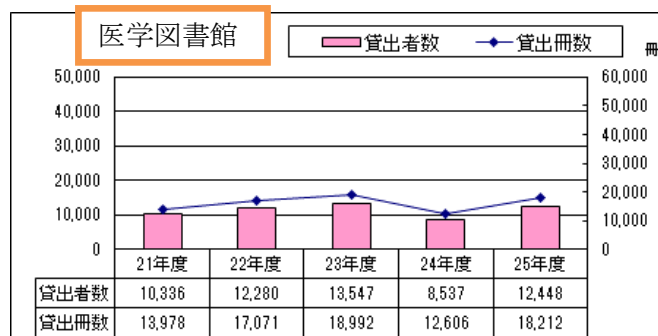
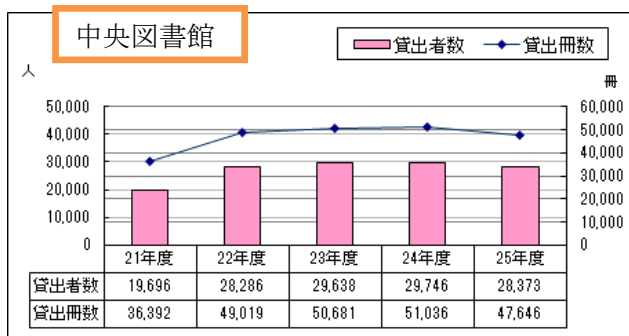
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
中央図書館	*291日	323日	343日	333日	340日
医学図書館	331日	331日	335日	*295日	327日

*耐震改修の為、仮設図書館で運用

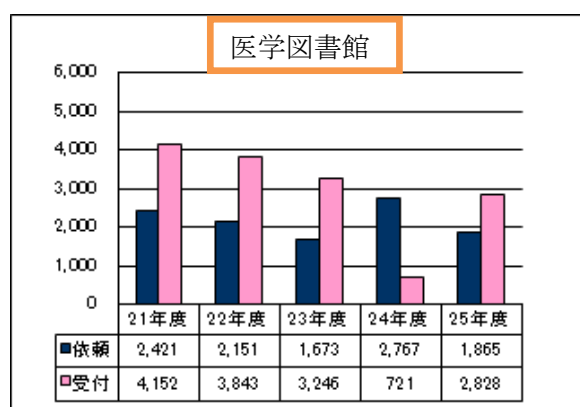
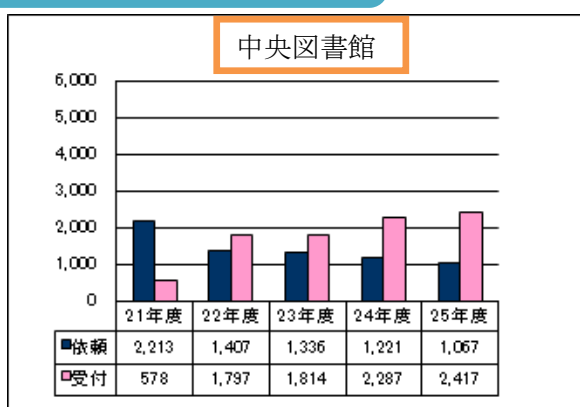
年度別入館者数



年度別貸出者数・冊数



文献複写学外依頼・受付件数



鳥取大学附属図書館報 第124号 (2014年10月)

〔編集・発行〕鳥取大学附属図書館中央図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] tosyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] http://www.lib.tottori-u.ac.jp/

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

